



令和3年度
福島小学校だより

ふくしま

第8号 9月 8日
八女市立福島小学校
校長 安達 浩文

給食の「食器」が変わりました



夏休み明けから給食で使用する食器が、陶器からPEN(ペン)食器に変わりました。PEN食器とはPEN樹脂(ポリエチレンナフタレート)を採用した食器で、各種ボトル、食品や化粧品の容器などに利用されており、リサイクルも可能な材質です。耐熱性や洗浄性に優れていたり、塩素系漂白剤での消毒が可能であったり、添加物を使用しておらず、水や油に溶け出す物質も無いなどの特徴があります。子どもたちにとっての一番の利点は、とにかく軽くなったことです。特に低学年の児童にとっては、今まで食器の入った食器かごを運ぶのは一苦労でしたが、ずいぶんと楽になりました。また、割れなくなったことも子どもたちにとっての大きな利点です。陶器の食器は、少し重く、手の小さな低学年児童には、すべりやすかったようです。新しい食器で、栄養バランスのとれた給食を楽しんで食べてもらいたいと思います。また、本年度より牛乳の容器もビンから紙パックに替わっています。



子どもたちの学びを止めないように・・・

福島小学校には毎日のように保護者から新型コロナウイルス感染に関わる情報が入り、様々な対応を行っているところです。昨年3月2日から全国一斉に臨時休校の措置がとられましたが、その当時の福岡県内の感染状況を振り返ってみると県全体で一日に1～2名程度であり、最も多かった3月31日でも16名でした。現在は、直近3日間の平均が800名を越えています。昨年から続くコロナ禍の中、ここ一月あまりが一番厳しい状況なのかもしれません。また、新たな傾向として20歳以下の若者の感染が急増しており、特に10歳代と10歳未満の新規感染者数は第4波の5倍を超えています。八女市では、12～15歳のワクチン接種が始まります。来週9月13日(月)から予約受付がはじまるそうです。



学校は、新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生した場合、保健所の指示に従って対応しています。(全国どこでも同じです) 最近では、感染者が急増し保健所がひっ迫しているためか、陽性者が出た場合の発症日や濃厚接触者の特定、PCR検査日の決定や結果の通知が以前と比べると遅くなっているようです。おそらく、感染者があまりにも多く、手が回らない状況なのでしょう。

今、私たちにできることは、保健所を批判することではなく、まず自分自身が新型コロナウイルスに感染しないよう最善の注意を払うことだと思います。



学校としては、感染予防を徹底するとともに子どもたちの学びを止めないように努力してまいりたいと思います。特に、12月までに予定している修学旅行・学年運動会・持久走記録会の行事は、学校生活にメリハリをつけ、活気を生み出すためにも、できる限り実施する方向で考えているところです。

保護者の皆様も感染には十分ご留意下さい。一日も早い収束・終息を願ってやみません。

再度のお願いです。市内市立学校で「家族が発熱しているにも関わらず、子どもを登校させている」ケースが相次いでいるそうです。家族に陽性者が出たり、濃厚接触者に特定されPCR検査を受けたりする場合はもちろん、家族に発熱者や体調不良者が出た場合にも児童の登校を控えていただきますようお願い致します。子どもたちの学びを止めないためにも・・・

裏面には、令和元年に話題となったある児童の自由研究を紹介しています。発想がおもしろく、大胆な取り組みです。家族の言動を観察した場面や自分の心情を表現した場面はユニークで「くすっ」と笑ってしまいます。また、自分で決めたこととはいえ最後までやり抜いた姿勢には感心させられます。なお、原文のままです。漢字を使用していなかったり、表記が統一していなかったりするところもありますがご了承下さい。

『宿題を最後の日まで残しておいた時の家族と自分の反応』

この、研究を始めた理由は、毎年、宿題を十日ほどでおわらせていたけど今年は、さいごまで、宿題を残してしまった場合、家族と自分の気持ちをしらべてみたかったからです。

けんしょう

初日…夏休みも始まり、きぶんは、ウキウキな気分で宿題のことは、まったく頭がない。

二日目から四日目

ドンドコキャンプにいった。とても楽しく、宿題のことなど、まったく頭がない。

5日目から8日目

プールにいったりみつばちにいったりして、毎日がたのしすぎて宿題のことなどまったく頭がない。

9日目から13日目

七夕まつりにいったりプールにいったりして楽しすぎて宿題のことなどまったく頭がない。

14日目から18日目

100kmの徒歩の旅に出発。

旅のかこくさに宿題のことなどまったく頭がない。

19日目から22日目

キャンプに行ったり海に行ったりおばあちゃん家にとまりにいったりバーベキューをしたり、花火を見たり花火をしたり“おぐにゃん”の家にとまりにいったり夏井さんのかきごおりをたべにいったりし夏休みで1番イベントがあったのしい期間では、あったのだが、次第に夏休みがおわるというきょうふがぼくの心にめばえ始めてきた。

残り三日

本来なら、朝早くからやらなければ、ならない量が残っているのだが、ぼくは自由けんきゅうのために、宿題に手をつけるわけにはいかない。

なぜか、ぼくの弟もまったく手を付けていない。大丈夫だろうか。

残り2日目

朝、宿題をやらず学校に行って、先生におこられる夢を見て目が覚めた。もうげんかいだ。変な汗がとまらない。

おじいちゃん・おばあちゃん

ウソでしょ？おわるの？

お父さん

笑って「お父さんも最後の日に、泣きながらやってたな」という

お母さん

毎日、宿題おわったの？とガミガミ言われていたが、やってるよーとぼくがウソをついていたことがばれげきど。おこって、お皿を1まい割る。

しかし、ぼくには研究があるので、すべて宿題をおわらせるわけには、いかないのです。分かってください。

弟 まなぶ

かれも、まったく宿題をやっていない。大丈夫だろうか。かれが、宿題に手をつけない理由がまったく分からない。

弟 まもる

かれは、保育園児のため宿題という意味がわからない。

最終日

ぐっすりねむり、朝10時すぎに目が覚める。なぜだろう、最終日にもかかわらず、すがすがしい朝をむかえている自分がある。宿題はまったくおわっていないのだ。なぜか、先生におこられる夢もまったく見ない。もしかして、やっていなくてもおこられないんじゃないか？とすら思えてきた。

そもそも宿題とは、何のためにあるのか。

ぼくは、何のために生きているのか。

生命は、なんのために世にうまれてきたのか。

なぜ、人は争うのか。

朝がた

おわった。学校に行こう。

完

最終日の家族の反応：自分

午前中は、なにも手がかかず、弟の宿題を手つだってみた。午後：お昼ご飯を食べおわり自分の宿題がまったく終わっていないことに気付く。なぜだろう。はき気がとまらない。宿題に手をつけ始める。

自由研究のためとはいえ、こんな研究に手を出してしまった自分に腹がたってしかたない。

かこにもどりたい… かこにもどりたい…

かこにもどりたい… かこには、もどれない…

やるしかない。やるならいましかない。

なみだがとまらない。 かこにもどりたい…

父

笑いながら「最後の日に泣きながらやってたな」と言う。

母

目があっても何も言葉をかけてこない。

もしかしてぼくは、大変な研究に手を出してしまったのでは、ないだろうか…

弟 まなぶ

午前中：すごいいきおいで宿題をやり始めている。

午後：友だちと遊びに行く

かれのこのよゆうは、どこから来ているのだろう。まさか、あいつもこの研究をやっているのか…

夜：帰ってきた弟は、泣きながら宿題をやっている。

もしかすると、この研究はぼくがやらなくても弟を研究すれば、結果が、分かったんじゃないだろうか。

ハム作 J 太郎

しんばいそうな目でぼくをみつめている。

かわいいやつだ。

カメ (1)

しんばいそうな目でぼくをみつめている。

かわいいやつだ。

《原文のまま》